



北九州市立赤崎小学校 環境学習によって深まる近隣学校と製鉄所の交流

新日鉄八幡製鉄所では、2000年から、近隣の小・中・高校の環境教育に協力してきた。製鉄所見学の受け入れはもちろん、スチール缶リサイクル活動や地球環境と鉄との関係についての「出張授業」を行い、交流を深めてきた。新日鉄が参画している総合環境コンビナート「北九州エコタウン」が身近にあることから、環境教育に熱心な学校が多い。

昨年12月9日、北九州市立赤崎小学校が、「第7回環境美化教育優良校等表彰最優秀校表彰」((社)食品容器環境美化協会主催)のリサイクル部門において、文部科学大臣奨励賞最優秀校表彰を受賞した。

赤崎小学校では、八幡製鉄所生産企画グループ 河野捷紀

の紹介をきっかけに、総合学習の一環として、2003年よりスチール缶リサイクル活動を開始した。毎月児童が回収するスチール缶とアルミ缶は約500kgで、北九州空き缶リサイクルステーション(KARS)の北九州全域約120団体の集計で、毎回回収量第1位となっている。

この活動をきっかけに、児童の間に「すべての素材は地球の大切な資源で、回収すればまた命がよみがえる」という意識が育ち始め、プルタブや古紙なども回収するようになった。現在はどんぐりを集めて苗木を育てたり、エコタウンの緑の回廊づくりの活動に参加したり、太陽光発電パネルを設置するなど、環境をキーワードにさまざまな取り組みを行っている。

福岡県北九州市立赤崎小学校
安部大真 校長



本校の「空き缶集め隊」の活動は、新日鉄の協力を得ながら、4年目を迎えました。地域の方々からいただいたスチール缶は、子どもと地域住民をつなぐ心のバトンです。今、子どもたちは学級会議を開き、いただいた支援金の使い道を真剣に話し合っています。「記念樹を」「募金に」と、子どもたちの夢が膨らみます。スチール缶に詰まっているすばらしい教育力に感動させられる毎日です。

八幡製鉄所生産業務部生産企画グループ
スチール缶担当マネジャー 河野捷紀



赤崎小学校の皆さん、受賞おめでとうございます。児童の皆さんからいただいた手紙の中に、地域の年配者と子どもの間でスチール缶を通じて対話が生まれる様子が書かれており、胸が熱くなりました。学校の小さな活動から生まれるリサイクルの意識や、人間としての温かさや優しさは、大きな感動を与えてくれました。

八幡製鉄所に届いた児童からの手紙

空き缶を集めるようになって、缶を見つけると缶が宝物にみえるようになりました。缶を集めることで隣のおばあちゃんたちとよく話をするようになりました。隣のおばあちゃんは、おじいちゃんと二人暮らしなので、たくさん缶は出ません。でも、缶がたまると「これを学校に持って行ってね」と渡してくれます。そのときはおばあちゃんもすごくうれしそうです。私も「ありがとう、持って行くよ」と言います。空き缶は私とおばあちゃんをつなぐ心のバトンになっています。(小5 Mさん)

川崎市立枡形中学校 「エネルギー環境学習講座」を支援

昨年12月に神奈川県川崎市立枡形中学校で行われた「エネルギー環境学習講座」に、一昨年に引き続き、新日鉄が参加した。枡形中学校では、エネルギー・環境問題への取り組みに力を入れており、体験的な学習を通して関心を高め、また問題解決のために各自がどのような活動ができるかを考える機会とする狙いで、企業とタイアップして学習講座を開いている。

環境部とエネルギー・プロセス研究開発部が協力して『プラスチックのリサイクルで燃料電池車を走らせよう』というテーマで90分間の授業を行い、社員が「なぜ鉄をつくる会社がプラスチックのリサイクルに取り組んでいるのか?」「どのようにして工場でリサイクルしているのか」「プラスチックをリサイクルすると、なぜ地球温暖化問題

の解決に役立つのか」という課題について、映像と実験により説明した。

生徒たちの関心も高く、スーパーのレジ袋を小さく丸めて実験装置に入れて、油や水素などのガスが発生する様子を観察し、さらに、水素が燃料となることを実体験するために、水素ポンプを用いて燃料電池車を走らせると、驚きの声があがった。

新日鉄では、地球温暖化問題への取り組みや循環型社会構築への貢献を、若い世代に理解してもらおう活動を今後も推進していく。



鉄の世界の奥深さと魅力を紹介する 『鉄の未来が見える本』を発行

このたび、新日本製鉄は「ものづくりの魅力」をわかりやすく紹介した『鉄の未来が見える本』を発行した。これは、日本実業出版社が発行する「Visual Engineering 図解 がわかる」シリーズの最新刊で、『鉄と鉄鋼がわかる本』の第二巻にあたる。

本誌に連載の「モノづくりの原点 科学の世界」シリーズを再編集して2004年11月に発行した『鉄と鉄鋼がわかる本』は、鉄の生い立ちや、製鋼・圧延技術、溶接のメカニズム、組織制御など、サイエンスに裏打ちされた鉄づくりの基本となる技術をわかりやすく解説し、読者の皆さまから「鉄の世界を身近に感じた」といった感想を数多くいただいた。おかげさまで、2007年3月に第11刷が発行され、金属分野の書籍としては異例の3万部を超える発行部数となる見込みだ。

第二巻『鉄の未来が見える本』では、『鉄と鉄鋼がわかる本』の内容をさらに一歩進めて、素材としての鉄の特徴や可能性、鉄の優れた特性を活用する「現代錬金術の技」を、「線材」「棒鋼」「電磁鋼板」「ステンレス」をテーマに紹介する。



本書では難しくなりがちな内容をビジュアルを用いてわかりやすく紹介している。

- 第1章：「世の中の材料」を俯瞰し、「鉄」がどのような存在なのかを探る
- 第2章：幅広い性質を発現する「鉄」の特徴や可能性を探る
- 第3章：高強度の最先端をいく「線材」
- 第4章：高強度と高機能を実現する「棒鋼」
- 第5章：鉄の磁性を活かした「電磁鋼板」
- 第6章：錆に負けない鋼「ステンレス鋼」
- 第7章：「鉄に願いを」をテーマに、さまざまな分野で鉄に関わる8名の方々からのメッセージ

本書は全国の主要書店にて購入できます。 定価 1,890円（税込み）
お問い合わせ先：新日本製鉄(株)総務部広報センター
TEL 03-3275-5016

科学技術館 鉄鋼展示室 “鉄の丸公園 1 丁目” 春休み ものづくり体験 鉄の彫刻をつくろう

日本鉄鋼連盟は3月24、25日の2日間、「鉄鋼業の社会的認知度向上策」における「ものづくり教育」の中核事業として、(財)日本科学技術振興財団科学技術館と共催で、「鉄の彫刻」をつくるイベントを開催する。この行事は昨年12月3日に行われた「たたら製鉄の実験操業」に続く、鉄連主催イベントの第2弾として行われる。

鉄はあらゆる溶接法が使用可能で、溶断も簡単にできる唯一の金属であり、芸術作品の素材としても広く使用されている。普段なかなか感じる事ができないこの鉄の特長を子どもたちに体験してもらおうと、今回、鉄の彫刻家 青木野枝さん(多摩美術大学助教授)が彫刻づくりの指導を行う。

青木さんは2001年から2002年の2年間にわたり、鉄の彫刻作品で本誌の表紙を飾った。また、各地で子ども向けに、鉄を使って芸術に親しむワークショップを開いている。

イベント当日、子どもたちは、安全に作業を行う方法を学んだ後に、各自、COR-TEN(コルテン)鋼の厚板を自由な形に溶断・溶接して作品に仕上げる。



鉄を使って芸術に親しむワークショップの様子



青木野枝さんと鉄の彫刻作品

当日はどなたでも見学できますので、興味のある方は、ぜひ科学技術館にお越しください。

お問い合わせ先：新日本製鉄(株)総務部広報センター
TEL 03-3275-5016

科学技術館 〒102-0091 東京都千代田区北の丸公園2-1
URL: <http://www.jsf.or.jp/>